

市民活動ニュース

第72号

2007年4月

亀山市民協働センターがオープンしました！

市民活動の支援と協働の拠点誕生！



4月1日朝、オープニングセレモニーが行われました。

市民協働センターは、東町商店街、旧東海道筋に位置し、市役所や各学校が近くにありま。また、市民協働センターには、横に車椅子用駐車場を含め10台分、道を挟んだ向い側に30台分の駐車場があります。



一階多目的ホールの各団体の活動展示パネル。

ホールは、誰でも自由に立ち寄っておしゃべりができる交流の場です。また、センター内の飾りつけは、在宅福祉ネットワーク愛里寿の皆さんに準備していただきました。



記念講演会には約100人が参加しました。講師は、社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長早瀬 昇氏。企業・行政と市民活動の違いをわかりやすく話され、会場はときどき爆笑の渦に……。

地域興し、子ども、国際交流等、各ジャンル5名のパネラーとパネル討論。

講師の巧みな話術にパネラーも打ち解け、会場は一体感に包まれました。この後、軽食を取りながら、市民交流会を行いました。



**定例市民交流の日** 2007年3月21日 市役所3F 大会議室

テーマ「5年後のために今から何を始めますか？」

参加者の声から

時間的に2月の市民交流会では行政への不満要望に終わった観がある。個人テーマだけでなくきらめき亀山21として何が出来るかを考えよう。行政に頼るのではなく自分が何をやるかが肝心。でもそんな人は少ない。ゴミ問題、ゴミ分別。転入者はわからない。ビン類がわかりにくい。これから袋がたくさんいる。亀山の分別は簡単、他所では当番が指導する。当番制は効果がある。ゴミ問題は環境センターの職員を交えて話し合ったら。ゴミ問題は自治会単位での説明会が適切だと思う。集合住宅に問題が多い。集積所があるところもないところもある。提案の場としてはきらめき亀山21もいい。ゴミカレンダーを見てから出したらわかる。何がわからないのか質問を明文化してから環境センターに持っていく方がよい。溶融炉ではなぜこうなるのかの説明ももらいたい。施設の機能を知らない。5年後に自分はゴミをどう減らすかの話しとか。自分でできることを議論したらどうか。江戸時代は完全リサイクル社会だった。日本はゴミが多いのでは。どう節減するのか。再生紙は高い。食品トレーも木製は高い。コストが温暖化か。新聞紙もたい肥になる。引越しの体験から100円ショップのかごなど、最近ではゴミが多い。協働センターで不用品交換会を開いたら。ガレージセールは。売れ残りを持ち帰らない人がいる。最近では衣類の不用品は売れ残る。ごみを5年後に半減するにはどこから始めるかという、話し合いをしたら。このテーマは、また改めて話し合うことになりました。

「こらぼ屋」代表海山裕之氏が語る、**地域交流の場創出の仕組みづくり**

第7回市民交流会主催により、3月28日(水)19時から、市役所3階第2・3委員会室で、ワン・デイ・シェフ・システム「こらぼ屋」代表海山裕之さんをお招きして交流会を開催しました。

テーマは「地域通貨やコミュニティレストラン」

活気づいた地域づくりの新しい市民活動グループを立上げるには、色々なアイデアや事例があります。その中でも際立って特色があるのは、ワン・デイ・シェフ・システム「こらぼ屋」です。

「料理作りが好きな人」「お店を持ちたいと思う人」が出会える場を提供。出会いの場から、色々な新しい地域づくりのグループが生まれ育っていく。次々とネットワークの輪が広がっていく。場の提供に際しては、「自発性」「自己責任」「相互支援」がキーワード。運営面では、仕切り役コーディネータがいること。

システムが成功している要は、このキーワード、コーディネータの存在にあると思いました。海山さんのような人に恵まれなくとも、「文殊の智恵」の譬えのように、意気の合った仲間、地域交流の場創出の仕組みを具体化できそうに感じました。

地域の活性化を考える会 寺山

**市民協働センターの前には、市民のショップ「ねこの館」があります。**

もう開店以来2年になります。民間資金100%の空店舗活用NPOです。とても厳しい運営だけど頑張っています。売っている商品は手づくりの装飾品や10日に一度の花木・野菜の販売、パソコンの修理や相談は毎日OK。この春からは子ども向けの英語教室も始まりました。民間の持ち味を活かしコミュニティビジネスとして自由に活用できる楽しいお店です。





発達障害連続セミナー第1回広汎性発達障害とは？

3月4日(日)セミナー第1回は、大好評でした！ 参加者 76名

参加者の顔ぶれも、保護者は半分ほどで、教師、保育士・介助員・市議会議員・近所の子がそうらしいという主婦の方などさまざまな立場の方がお話を聞きにみえました。発達障害の中の自閉症について、具体的な例を挙げながら、5つの障害について解りやすく話を頂き、感心したのが、時間を空間で捉えているという話。まさしくそうです。以下アンケートから



- ・志村先生のお話は、わかりやすくよかったです。
- ・具体的な話でとても参考になりました。ぜひ次回も参加したいと思います。
- ・自分の息子と照らし合せて聞いていました。良い関係で大きくなってほしいので勉強したい。
- ・とても、うなづける話でした。子どもの状態から原因をさぐることの大切さが、よくわかりました。
- ・その子の視点に立つことの大切さとむずかしさがありますよね。回りの人が、問われますね。
- ・自閉症の本質について、教えていただけで、本当に有難かった。
- ・こんな講演ができる方が亀山の子ども総合支援室の室長さんであるということがとても心強く感じた。
- ・質疑応答の内容が、自分の悩みと一緒にすることがあり、理解できてよかったです。
- ・多くの知的障害が感覚の特異性から...との話し、心のメカニズムの複雑さ怪奇さを垣間見ました
- ・私は以前、小学校で自閉症児の介助員をしていました。いろいろお話を聞く中で、もう少し工夫してあげたらなぁと思いました。
- ・大人の都合でどうにかさせようとするのは、その子にとって苦痛でしかないのですね。
- ・いろんな悩みがあって、自分だけじゃないんだなと、ちょっとほっとしました。
- ・ぼっかぼかの会さん、支援の輪を広げる働きを胸をはってやりましょう。ご苦労様です

第2回：2007年5月19日(土) 13:30～16:00 亀山市総合保健福祉センター

志村 浩二 氏 (臨床心理士・保健福祉部子ども総合支援室室長)

100名 * 定員になり次第締め切りとさせていただきます

参加資格はありません どなたでもご参加してください

ぼっかぼかの会 浜野

FAX: 0595-83-4956

E-mail y_hamano@kpa.biglobe.ne.jp

災害時に備える地域の多文化共生

～阪神大震災と新潟中越地震から学ぶこと～

3月13日(火) 亀山市総合保健福祉センターで多文化共生講演会が開かれました。講師は、多文化共生センター大阪 代表理事の田村太郎さん。阪神大震災直後に外国人被災者へ情報提供する活動に参加、その後数々の支援活動を通して、また3年前の中越地震での対応などのお話をいただきました。



地域には色々な人が住み、「災害時要援護者」(災害弱者)も障害者、高齢者、外国人等さまざまなニーズがあること、また、被災時の避難所でも女性や子どもの視点での対応が欠落しがちなことを過去の体験から具体例をあげて説明されました。

「災害時」とは「計画通りに行かない」状態のことで、計画は必要だが計画通りに行かないことを計画しておく必要があるそうです。今何もないときにこそ災害時の備えが必要で、地域のなかで色々と専門性を持つ人や組織を巻き込んでおくこと、また、広域でのネットワークと多様な自主防災コミュニティを構築しておくようアドバイスされました。

亀山市も人口比率4.35%と広範囲にわたり多くの外国人が定住し、地域でのつながりなどに色々と課題が想定されます。

外国人が地域で孤立しないまち、外国人も支援する側になり、ともに助け合う関係をつくるのが最大の防災対策になると思われました。



(KIFA亀山国際交流の会 古市)

**4月の市民交流の日「きらめき亀山21」**

日時:4月21日(土)19:30~21:30

場所:市民協働センター 申し込み不要

内容:テーマ 「地域に活かそう団塊の力」

これから先、多くの方が定年を迎え地域に戻ってきます。
でも不安に思っている方も多いのではないのでしょうか。まだまだ何かしたい。でも何ができるかわからない。
何からはじめる?そのコツは?団塊の人もそうでない人も一緒に話し合いませんか?

また、市民交流会の記録冊子もできましたので配布いたします。

5月の市民交流の日「どうする?これからの亀山の景観」 1級建築士奥田裕子さんに「景観法について」のお話を聞いた後、皆でこれからの亀山の景観について話し合います。

**みつまた祭り(安坂山町坂本)**

3月25日(日)小雨も上がり恒例のみつまた祭りが開催されました。みつまたツアーにはボーイスカウトの子どもたちも参加、40分の道を歩きみつまたの花に埋もれた山を実体験しました。坂本農村公園のブースでは初めての試みとして手作りの山菜天ぷらのふるまいもあり豊かな季節の味を実体験しました。
午後には、自然に親しむ会顧問の葛山博次さんの講演があり、会場はいっぱいになりました。身近な植物のいわれやヨモギ、スギナに代表される民間薬の話に参加者一同耳を傾けました。

**「亀山あるこうかい」春を訪ねて**

3月18日「あるこうかい」では約70名が「あいあい」から出発、最近発掘された山内一豊(?)の古戦場を経てサンシャインパークへ。昼食や買い物の後シャープの巨大な建物の横を白木に向かい、小川へ。
一気に住山に降って「あいあい」へ戻りました。約10kmとかつてない長距離でしたが全員元気に春の一日を満喫しました。
あるこうかいでは6月にも定例会を予定しています。

市民協働センターのホームページができました

予約状況もインターネットで見ることができます。

http://shimin-kyodo.sakura.ne.jp/

E mail mail@shimin-kyodo.sakura.ne.jp

市民活動ニュースに掲載する情報・お便りを募集しています。詳しくは市民参画協働室まで

編集作成:「きらめき亀山21」企画会議(問い合わせ先:亀山市民部市民参画協働室 0595-84-5008)

〒519-0195 三重県亀山市民本丸町577番地 FAX0595-82-1434 E-mail shimin@city.kameyama.mie.jp

この月刊新聞はこちらにもあります。【毎月21日市民交流の日・本庁ロビー・市民協働センター・関支所・図書館・歴史博物館・医療センター・総合保健福祉センター「あいあい」・関町北部ふれあいセンター・林業総合センター・鈴鹿馬子協会館・老人福祉センター・健康づくりセンター・関B&G海洋センター・中央公民館・オアシス館・各地区コミュニティセンター・亀山郵便局・亀山駅前郵便局・市民のショップねこの館・鈴鹿県民センター・みえ市民活動ボランティアセンター(津市)】E-MAIL amani@helen.ocn.ne.jp ホームページ http://www6.ocn.ne.jp/~kameyama/kirameki/ 市民ネット http://www6.ocn.ne.jp/~kameyama/ 情報いっぱい「きらめき亀山21」メーリングリストへの加入は「きらめき亀山21」HPより登録できます。